

I 実践

1 研究主題

思いやりと助け合いの心を育てる人権教育の在り方
ー教育活動全体を通してー

2 主題設定の理由

学校における人権教育は、各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間等、教育活動全体を通して取り組むものであり、豊かな人権感覚や人権意識を育てる役割を担っている。指導に当たっては、人権についての知的理解を深めると共に、自分の大切さや他の人の大切さを認めることができるようになり、それが様々な場面で具体的な態度や行動に現れるようにしなければならない。

本校の児童は、明るく素直であり、思いやりのある言動も見られるが、自己中心的な行動や相手の気持ちを考えない言動も見られる。それが原因でトラブルが生じることもある。また、価値観の多様化に伴い、家庭における道徳性（特に基本的生活習慣の形成）にも差がみられる。そこで、学校教育活動全体を通して、様々な体験的な活動を取り入れ、相手の立場を思いやれる心や助け合う心を育てていきたいと考え、本主題を設定した。

3 実践内容

(1) 人権ビデオ教材の視聴

・各学年の発達段階に応じたビデオ教材を活用し、学年や学級で話し合う。

1 学年・・・とべないホテル

2 学年・・・金色のクジラ

3 学年・・・みんなで跳んだ

4 学年・・・二匹の猫と元気な家族

5 学年・・・しらんぷり

6 学年・・・ま・さ・か わたしが！？

(2) 異学年との交流活動

ア 生活科

生活科では、4月に2年生が1年生の手をつなぎ、面倒を見ながら校内を案内した。11月の秋祭りには、1年生が幼稚園生を、2年生が1年生を招待して優しく声をかけ、教えながら楽しく活動する姿が見られた。

イ わんぱく集会（縦割り集団活動）・わんぱくタイム（学級単位の集団活動）

1～6年生のたてわり集団を「わんぱくグループ」として年度始めに編成し、年間計画にそった月1回の活動「わんぱく集会」を通して、思いやる心や態度の育成をめざした。異学年が一緒に楽しく遊ぶことができた。上級生は、遊びを考え下級生の面倒を見て、下級生は教えてくれる上級生に親しみをもって接することができた。

毎週水曜日の昼休みは、クラスごとに遊びの計画を立て全員で遊ぶ「わんぱくタイム」が実施されている。遊びの計画を立てる際には、相手の気持ちやさまざまな立場を考慮しながら進めている。毎週、みんなで楽しく遊ぶ姿が見られた。

(3) 地域との交流

ア 金沢ふれあい会（地域のお年寄りとの交流会）

地域に住むお年寄りの方を学校に招き、昔の生活の様子や昔の遊びを教えてもらった。給食を一緒に食べ交流を深め、感謝の気持ちと思いやりの心をもつことができた。



イ 自警団との交流会

各クラスで感謝の気持ちを伝える発表をしたり、会食をしたりして、毎日お世話になっている自警団の方々に感謝の気持ちを表している。

(4) 人権メッセージへの応募

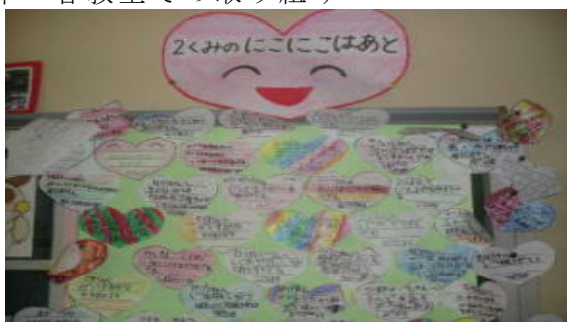
夏休みの課題の1つとして、全校児童に呼びかけた。中、高学年では全クラスが取り組み人権意識を高める機会となった。

(5) 環境面から

ア こころコーナー（人権コーナー）の設置

全児童が目に触れる機会の多い体育館への通路に「こころコーナー」がある。学年で取り組んだ人権メッセージやポスターを掲示して、人権への啓発の場としている。

イ 各教室での取り組み



毎日の生活の中で、友だちに助けられたこと、親切にされたこと、友達にしてもらってうれしかったことなどをカードに書き掲示した。友達の良さに気づいたり、感謝の心を表したりする機会としている。

4 成果

- ・様々な体験活動の中で、お互いを認め合い、高め合う機会をもつことができ、相手を思いやり、助け合おうとする豊かな心が育っている。特に、月に1度の縦割り集団活動をきっかけに学年や学級の枠を超えて、上級生が下級生と一緒に遊んだり、教え合ったりする姿も見られた。
- ・「人権メッセージ」への応募や「人権ビデオ」視聴を通して、子どもの人権問題への意識の高揚を図ることができた。

II 今後の課題

- ・教育活動全体を通して、豊かな人権感覚や人権意識を育て、日常生活の中でも実践力のある児童の育成を図っていきたい。
- ・職員研修や家庭・地域への啓発を充実させ、学校・家庭・地域が連携し、人権教育に取り組めるように努めたい。

III 人権コーナー設置の様子

